

アムンディ デュアル・バリュー・アロケーション Aコース (年2回決算型、為替ヘッジあり) / Bコース (年2回決算型、為替ヘッジなし)

追加型投信 / 内外 / 資産複合

第12期

(決算日 2020年12月7日)

作成対象期間 (2020年6月6日~2020年12月7日)

第12期末 (2020年12月7日)		
	Aコース	Bコース
基準価額	10,921円	10,582円
純資産総額	367百万円	856百万円
第12期		
騰落率	9.4%	5.0%
分配金 (税込み)	0円	0円

(注) 騰落率は分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

●受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。
「アムンディ デュアル・バリュー・アロケーション Aコース (年2回決算型、為替ヘッジあり) / Bコース (年2回決算型、為替ヘッジなし)」はこの度、それぞれ上記の決算を行いました。
上記ファンドは、ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンドへの投資を通じて、主として世界各国の株式、債券等へ実質的に投資を行い、インカムゲインの確保と投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目指して運用を行います。ボトムアップ方式に基づいたバリュー投資により個別銘柄の分析を徹底的に行い、地理的分散、時価総額、業種または格付等に制約を受けることなく、投資を行います。なお、C Aマネープールファンド (適格機関投資家専用) への投資も行います。
Aコース (年2回決算型、為替ヘッジあり) においては、原則として外貨建資産の為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります。Bコース (年2回決算型、為替ヘッジなし) においては、原則として外貨建資産の為替ヘッジは行いません。
当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。
ここに運用状況についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

【閲覧方法】

- 右記<お問い合わせ先>に記載されているホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」メニューから「ファンド・基準価額一覧」(当ファンドが償還した場合は「償還ファンド一覧」)をクリック⇒当該一覧から当ファンドのファンド名称をクリック⇒運用報告書 (全体版) をクリック
※ホームページ掲載日より5年間は閲覧いただけます。
- 運用報告書 (全体版) は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

アムンディ・ジャパン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1丁目2番2号

<お問い合わせ先>

お客様サポートライン：0120-202-900 (2021年6月30日まで)
03-3593-5911※ (2021年7月1日から)
※通話料は有料です

受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで
ホームページアドレス：<https://www.amundi.co.jp/>

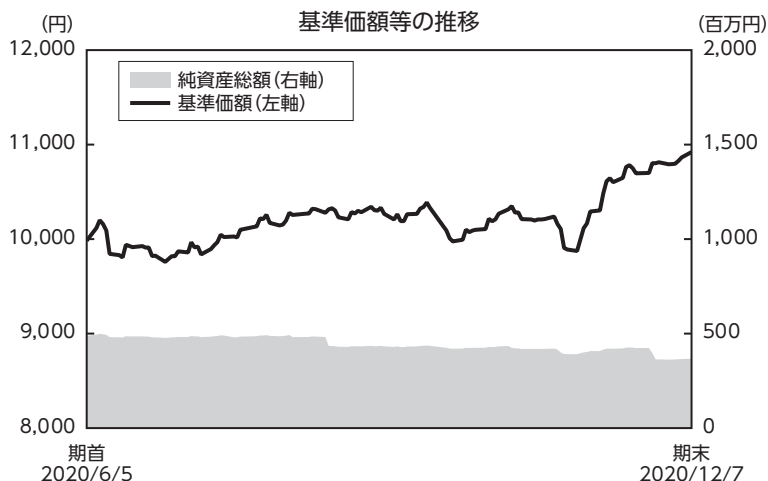
運用経過

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

基準価額等の推移

第12期首	9,984円
第12期末	10,921円
既払分配金 (税込み)	0円
騰落率	9.4%

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。



基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ① 2020年6月から8月にかけて、世界各国での経済活動再開の動きを受けて景気回復への期待が高まり、また米国の良好な経済指標や強力な金融緩和が長期間維持されるとの見方から、株式市場および米国ハイ・イールド債市場が上昇したこと
- ② 2020年11月に米国大統領選挙を通過した安心感に加え、新型コロナウイルスのワクチン開発が進捗し実用化が視野に入ってきたとの見方から、株式市場および米国ハイ・イールド債市場が大幅に上昇したこと
- ③ 当期は金価格が上昇したこと

下落要因

- ① 2020年9月に、それまでの米国の上昇相場をけん引していた情報技術セクターの主要銘柄の急落をきっかけにリスク回避の動きが再燃し、また米国の追加景気対策に対する悲観的な見方が出たことから、株式市場および米国ハイ・イールド債市場が下落したこと
- ② 2020年10月に、米国大統領選挙が近づく中、欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大により景気、企業業績の先行き不透明感が台頭し、株式市場が下落したこと

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

1万口当たりの費用明細

項 目	第12期 (2020年6月6日 ～2020年12月7日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	52円 (11) (40) (1)	0.516% (0.112) (0.390) (0.014)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	7 (1) (1) (6) (0)	0.069 (0.006) (0.005) (0.058) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	59	0.585	

期中の平均基準価額は10,176円です。

(注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

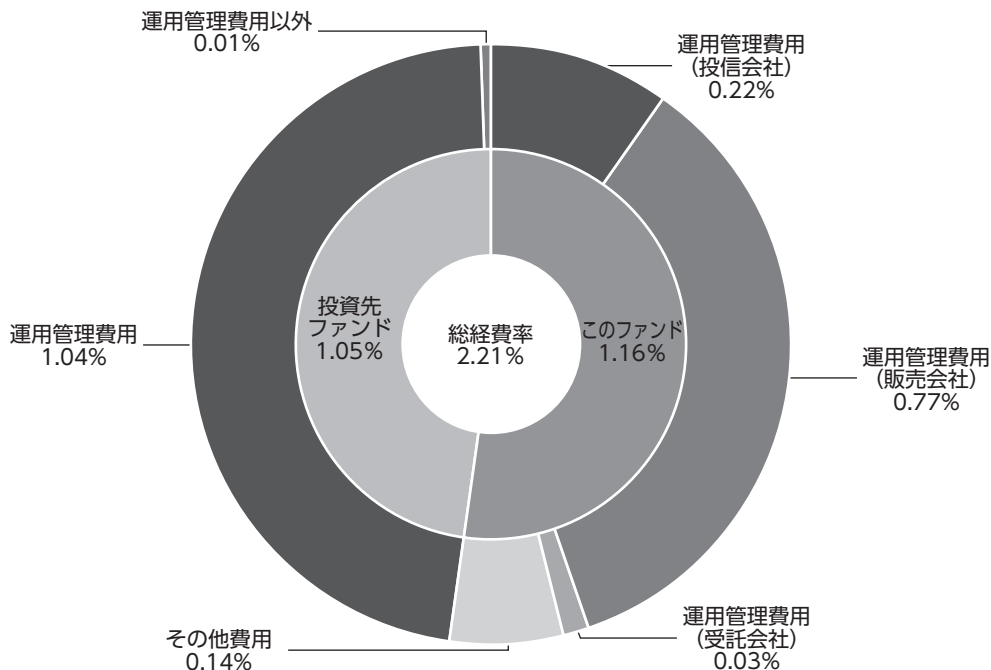
(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

（参考情報）

● 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.21%です。



総経費率 (①+②+③)	2.21%
①このファンドの費用の比率	1.16%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.04%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

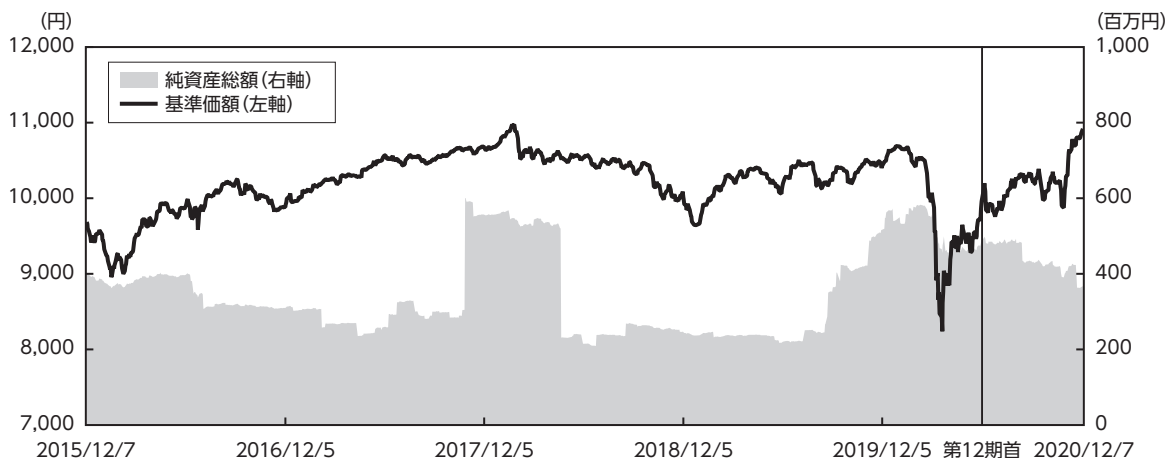
(注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

最近5年間の基準価額等の推移

（2015年12月7日～2020年12月7日）



最近5年間の年間騰落率

	2015/12/7 期首	2016/12/5 決算日	2017/12/5 決算日	2018/12/5 決算日	2019/12/5 決算日	2020/12/7 決算日
基準価額 (円)	9,688	9,885	10,672	10,014	10,427	10,921
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	2.0	8.0	-6.2	4.1	4.7
純資産総額 (百万円)	402	309	556	245	516	367

(注) 運用成果の目標基準となるベンチマークおよび運用方針に対し適切に比較できる参考指数はありません。

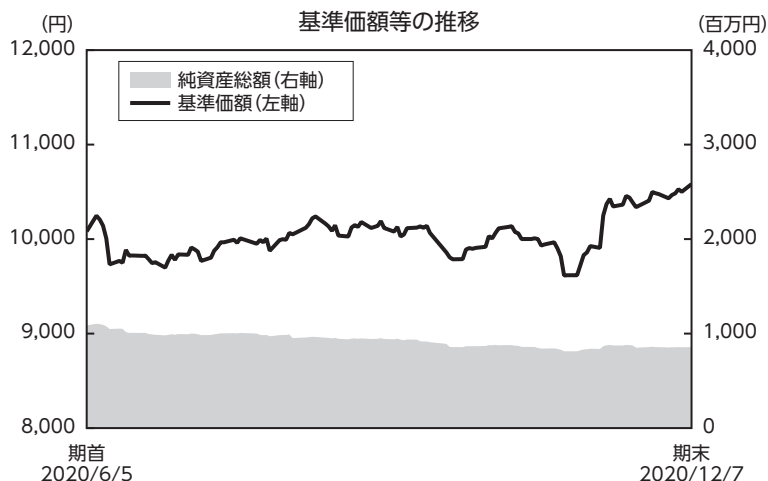
運用経過

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

基準価額等の推移

第12期首	10,081円
第12期末	10,582円
既払分配金 (税込み)	0円
騰落率	5.0%

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。



基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ① 2020年6月から8月にかけて、世界各国での経済活動再開の動きを受けて景気回復への期待が高まり、また米国の良好な経済指標や強力な金融緩和が長期間維持されるとの見方から、株式市場および米国ハイ・イールド債市場が上昇したこと
- ② 2020年11月に米国大統領選挙を通過した安心感に加え、新型コロナウイルスのワクチン開発が進捗し実用化が視野に入ってきたとの見方から、株式市場および米国ハイ・イールド債市場が大幅に上昇したこと
- ③ 当期は金価格が上昇したこと

下落要因

- ① 2020年9月に、それまでの米国の上昇相場をけん引していた情報技術セクターの主要銘柄の急落をきっかけにリスク回避の動きが再燃し、また米国の追加景気対策に対する悲観的な見方が出たことから、株式市場および米国ハイ・イールド債市場が下落したこと
- ② 2020年10月に、米国大統領選挙が近づく中、欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大により景気、企業業績の先行き不透明感が台頭し、株式市場が下落したこと
- ③ 為替市場において、当期は米ドル安・円高となったこと

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

1万口当たりの費用明細

項 目	第12期 (2020年6月6日 ～2020年12月7日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	51円 (11) (39) (1)	0.516% (0.112) (0.390) (0.014)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	4 (0) (1) (3) (0)	0.037 (0.004) (0.005) (0.027) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	55	0.553	

期中の平均基準価額は9,953円です。

(注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

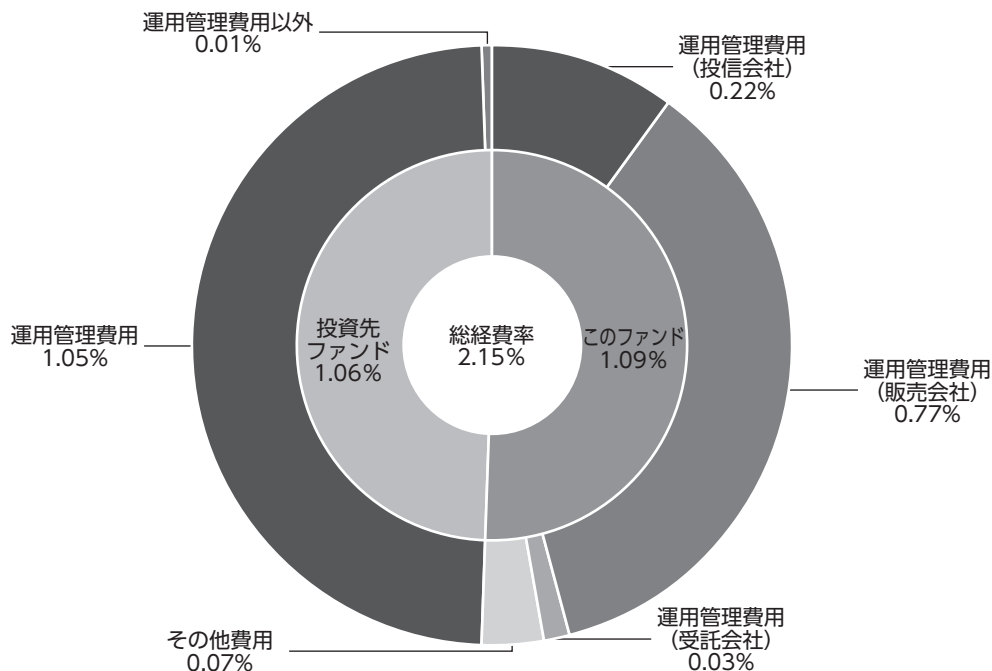
(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

（参考情報）

● 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.15%です。



総経費率 (①+②+③)	2.15%
①このファンドの費用の比率	1.09%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.05%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

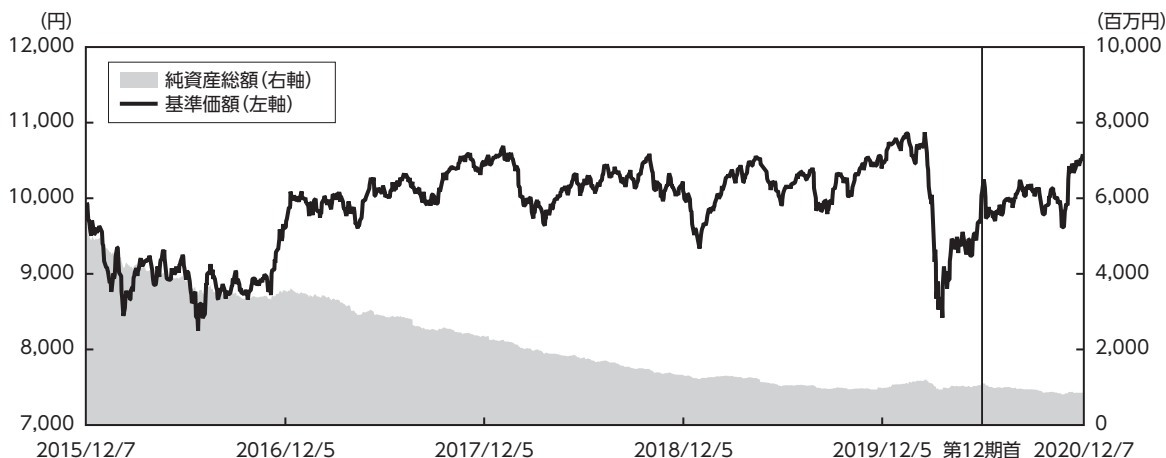
(注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

最近5年間の基準価額等の推移

（2015年12月7日～2020年12月7日）



最近5年間の年間騰落率

	2015/12/7 期首	2016/12/5 決算日	2017/12/5 決算日	2018/12/5 決算日	2019/12/5 決算日	2020/12/7 決算日
基準価額 (円)	9,944	9,613	10,454	10,090	10,452	10,582
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	-3.3	8.7	-3.5	3.6	1.2
純資産総額 (百万円)	5,253	3,563	2,348	1,317	979	856

(注) 運用成果の目標基準となるベンチマークおよび運用方針に対し適切に比較できる参考指数はありません。

投資環境

<世界の株式市場>

当期の株式市場は、2020年6月に世界的に経済活動再開の動きが広がる中で堅調な展開ではじまりました。その後は、景気回復への期待と新型コロナウイルスの感染再拡大による景気回復の遅れに対する懸念が交錯し、値動きの荒い展開となりましたが、米国の良好な経済指標や強力な金融緩和が長期間維持されるとの見方から、8月までは上昇を続けました。しかし9月に入ると、それまでの米国の上昇相場をけん引していた情報技術セクターの主要銘柄の急落をきっかけにリスク回避の動きが再燃し、また米国の追加景気対策に対する悲観的な見方が出たことから、株式市場は反落しました。10月も欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大による景気、企業業績の先行き不透明感からリスク回避の動きが続き、特に欧州は経済活動の制限再開が重しとなり市場の下落率は大きくなりました。ところが11月に入り米国大統領選挙を通過すると、大きな政治リスクが除かれたことで市場のリスク選好度が回復し、さらに新型コロナウイルスのワクチン開発が進捗し実用化が視野に入ってきたとの報道が好感され、市場は大幅に上昇しました。当期の世界の先進国の主要株式の動きを示すMSCIワールド指数（配当込み）は前期末比で上昇しました（米ドルベース）。

<世界の債券市場>

当期の米国ハイ・イールド債市場は、2020年6月から8月は上昇基調を継続しましたが、9月に市場でリスク回避の動きが再燃した局面では、投資家により利益確定の売りもあって下落しました。しかし10月以降は再び上昇に転じ、特に11月は新型コロナウイルスのワクチン開発が進捗し実用化が視野に入ってきたとの見方から、利回り獲得を重視する投資家のリスク選好度が高まり、大幅に上昇しました。

<金市場>

当期の金価格は、2020年6月から8月上旬までは、景気先行き懸念から安全資産への需要の高まり、そして各国の金融緩和による通貨価値の下落やインフレへの懸念から上昇基調を継続しました。しかし、8月に史上最高値を記録した後は下落に転じ、その後も上下を繰り返しながらも軟調な展開が続きました。当期末の金価格は前期末比で上昇しました。

<為替市場>

当期の米ドル／円相場は、期初の109円台から上下を繰り返しながらも軟調に推移しました。2020年11月の米国大統領選挙直後および新型コロナウイルスのワクチン開発が進捗し実用化に近づいたとの見方が強まった月後半には103円台をつける局面もありました。当期末の米ドル／円相場は、前期末比で下落しました。

<日本短期国債市場>

当期の短期国債市場では、日銀によるマイナス金利政策のもと、TDB（国庫短期証券）3ヵ月物の利回りは-0.11%前後の低い水準で始まりました。9月末には、年末越えの担保需要や海外勢の買い需要から、利回りは低下しました。期末にかけては、海外勢の買い需要が後退したことから、利回りは再び上昇に転じ、-0.09%前後の水準で期末を迎えました。

ポートフォリオ

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

当ファンドは、主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託である「ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」に投資しました。世界の株式、債券等への実質的な投資は「ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド」を通じて行いました。また、外貨建資産については為替ヘッジを行い為替リスクの低減を図りました。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

当ファンドは、主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託である「ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」に投資しました。世界の株式、債券等への実質的な投資は「ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド」を通じて行いました。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

<ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド>

当期のファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンドは上昇（米ドルベース）しました。国別では米国のプラスの影響が相対的に大きくなりました。セクター別では、金融および資本財・サービスなど多くのセクターがプラスに寄与し、エネルギーのみマイナスの寄与となりました。金関連資産はプラスに寄与しました。当期は、株式市場全体が上昇するなか、株価が想定する本源的価値を反映していると判断した銘柄などを売却するとともに、割安と判断できる新たな銘柄を購入しました。債券は質の高い銘柄に重点を置き、流動性の低い銘柄への投資を回避する、保守的な投資スタンスを継続しました。

（ファースト イーグル インベストメント マネジメント）

<CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）>

当期、主として12ヵ月以内に償還を迎える地方債への投資により、安定した収益の確保を目指して運用を行いました。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

ベンチマークとの差異

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。

分配金

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円・1万口当たり・税込み）

項目	第12期
	(2020年6月6日～2020年12月7日)
当期分配金	—
(対基準価額比率)	(—%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,281

・「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

・「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円・1万口当たり・税込み）

項目	第12期
	(2020年6月6日～2020年12月7日)
当期分配金	—
(対基準価額比率)	(—%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,622

・「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

・「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

当ファンドは引き続き、主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託である「ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」に投資します。また、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

当ファンドは引き続き、主として米ドル建のルクセンブルク籍の会社型投資信託である「ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド」と円建の国内籍の投資信託である「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」に投資します。

（アムンディ・ジャパン株式会社）

<ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド>

当ファンドは、主に世界の株式、債券等へ投資し、投資信託財産の中長期的な成長とインカムゲインの獲得を目指して運用を行っています。そのためには、安全マージン（予期せぬ事態が生じて、回復不可能な損失を回避できるように、十分に割安な水準で投資を行うこと）を重視し、個別銘柄が私たちの考える本源的価値を十分に下回る場合にのみ、投資を行います。投資機会が限られると考える局面では、現金等を保持します。現金等は個別銘柄単位で十分に割安と判断できる投資機会を特定した段階で、投資資金に充当するものと位置付けています。また、予期せぬリスクに対するヘッジ手段、および中長期的に資産の実質的価値の維持を目指す手段として、金関連資産を一定比率保有します。

今後も引き続き、ボトムアップによる銘柄選択を通じて株式、債券等に分散投資することで、長期的な購買力の維持とインカムゲインの獲得を目指した運用を継続する方針です。

（ファーストイーグル インベストメント マネジメント）

<CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）>

安全性重視の観点から、12ヵ月以内に償還を迎える債券への投資により安定的な運用を行います。

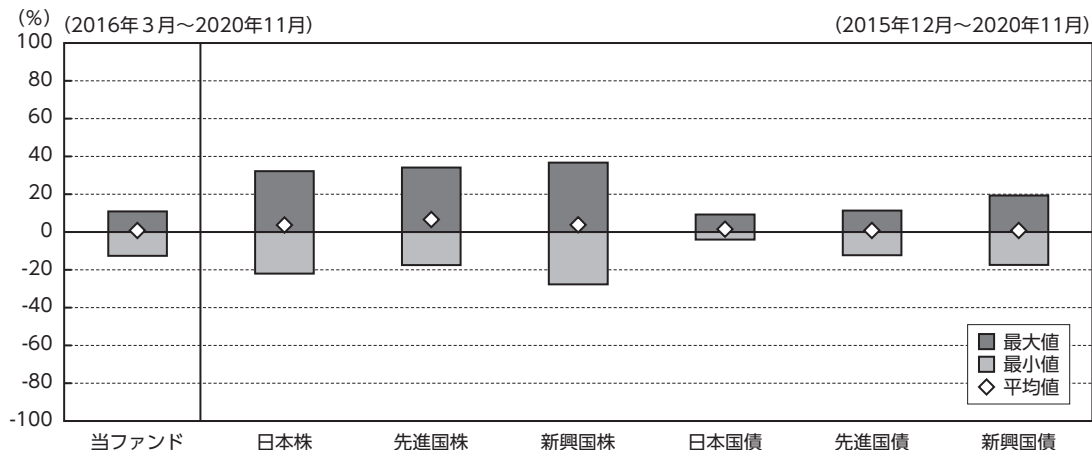
（アムンディ・ジャパン株式会社）

ファンドの概要

	Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）	Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）
商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2015年3月6日から2025年6月5日までです。	
運用方針	ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンドへの投資を通じて、主として世界各国の株式、債券等へ実質的に投資を行い、インカムゲインの確保と投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目指して運用を行います。なお、CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）への投資も行います。	
	外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。	外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主要投資対象	アムンディ デュアル・パリュール・アロケーション Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）／Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）	ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）
	ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド	世界各国の株式、債券等
	CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）	本邦通貨表示の短期公社債
運用方法	①ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンドへの投資を通じて、主として世界各国の株式、債券等へ実質的に投資を行い、インカムゲインの確保と投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
	②投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。	
	③外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。	③外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
分配方針	毎決算時（年2回、原則毎年6月および12月の各5日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）



当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率及び最小騰落率

(%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	0.8	3.7	6.6	3.8	1.5	0.8	0.8
最大値	10.9	32.2	34.1	36.7	9.3	11.4	19.3
最小値	-12.6	-22.0	-17.5	-27.7	-4.0	-12.3	-17.4

(注1) 上記は、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注2) 当ファンドについては、2016年3月から2020年11月の4年9ヵ月間、他の代表的な資産クラスについては、2015年12月から2020年11月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ベース）

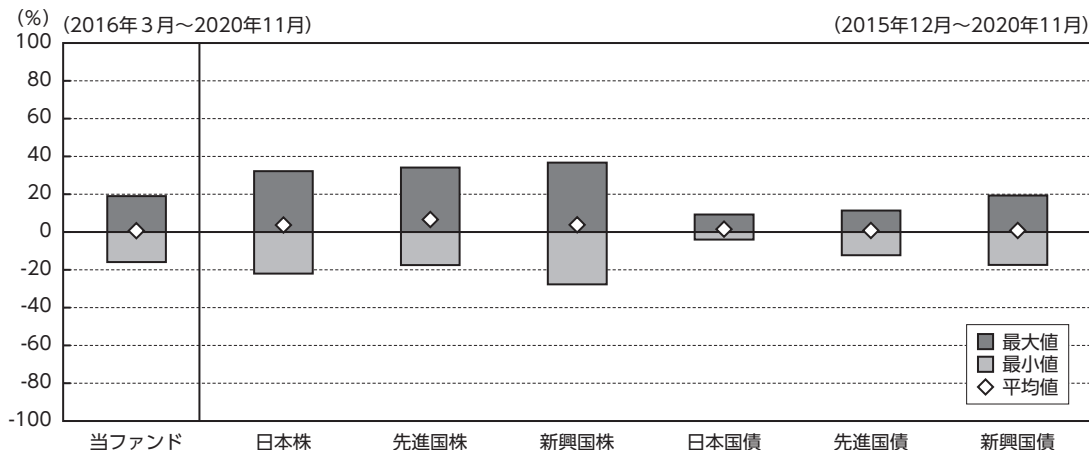
※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・当ファンドは、分配金（税込み）が分配時に再投資されたものとみなして計算した年間騰落率に基づき計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・騰落率は直近月末から遡って算出した結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）



当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率及び最小騰落率

(%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	0.7	3.7	6.6	3.8	1.5	0.8	0.8
最大値	19.0	32.2	34.1	36.7	9.3	11.4	19.3
最小値	-15.9	-22.0	-17.5	-27.7	-4.0	-12.3	-17.4

(注1) 上記は、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注2) 当ファンドについては、2016年3月から2020年11月の4年9ヵ月間、他の代表的な資産クラスについては、2015年12月から2020年11月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・当ファンドは、分配金（税込み）が分配時に再投資されたものとみなして計算した年間騰落率に基づき計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・騰落率は直近月末から遡って算出した結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容

■ Aコース（年2回決算型、為替ヘッジあり）

組入ファンド

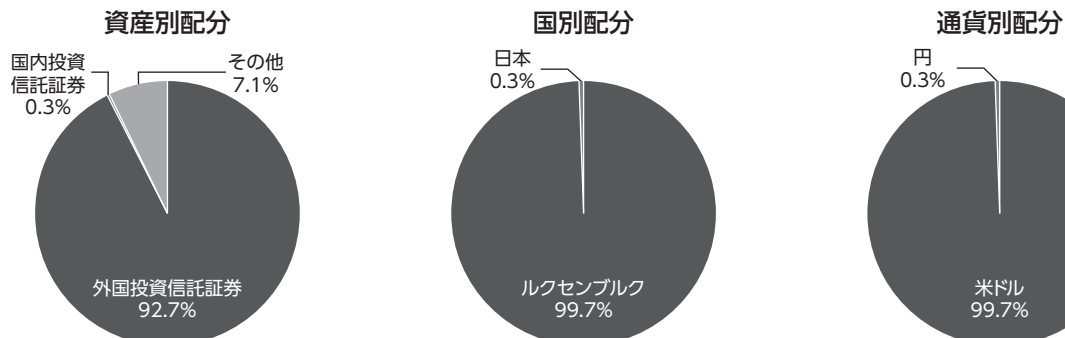
2020年12月7日現在
(組入銘柄数：2銘柄)

	銘柄	通貨	比率
1	ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド	米ドル	92.7%
2	CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）	円	0.3%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されております。

種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

純資産等

項目	第12期末 2020年12月7日
純資産総額	367,083,755円
受益権総口数	336,119,337口
1万口当たり基準価額	10,921円

※当期間（第12期）中における追加設定元本額は179,401円、同解約元本額は152,920,216円です。

ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容

■ Bコース（年2回決算型、為替ヘッジなし）

組入ファンド

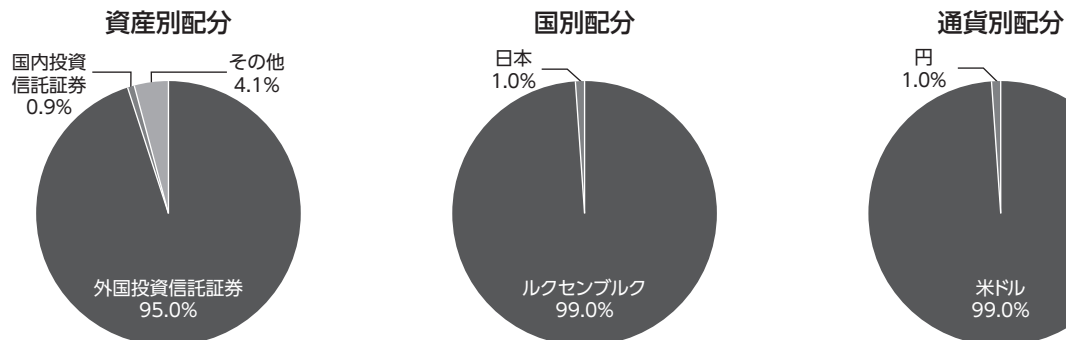
2020年12月7日現在
(組入銘柄数：2銘柄)

	銘柄	通貨	比率
1	ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド	米ドル	95.0%
2	CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）	円	0.9%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されております。

種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

純資産等

項目	第12期末 2020年12月7日
純資産総額	856,673,618円
受益権総口数	809,581,768口
1万口当たり基準価額	10,582円

※当期間（第12期）中における追加設定元本額は4,592,902円、同解約元本額は273,047,032円です。

組入ファンドの概要

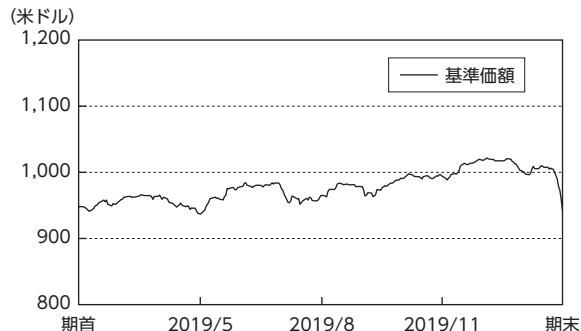
<ファースト・イーグル・アムンディ・インカム・ビルダー・ファンド>

決算日：2020年2月29日

(計算期間：2019年3月1日～2020年2月29日)

「基準価額の推移」は組入シェアクラスの内容ですが、他の開示情報につきましては、組入ファンド全体の内容を掲載しています。

基準価額の推移（組入シェアクラス）



(注) 基準価額は、収益分配金を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

組入上位10銘柄

2020年2月29日現在
(組入銘柄数：227銘柄)

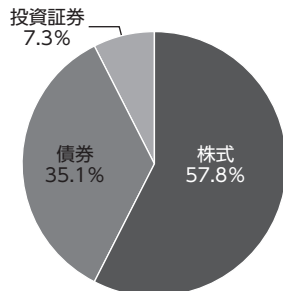
	銘柄	通貨	発行国	比率
1	WISDMTREE METAL SECURITIES LIMITED	米ドル	ジャージー	5.1%
2	BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	英ポンド	イギリス	2.1%
3	NESTLE SA	スイスフラン	スイス	2.0%
4	US TREASURY N/B 2.125%30/06/2022	米ドル	アメリカ	2.0%
5	EXXON MOBIL CORP	米ドル	アメリカ	1.9%
6	JARDINE MATHESON HOLDINGS	米ドル	バミューダ	1.9%
7	US TREASURY NB 2.5% 31/01/2024	米ドル	アメリカ	1.8%
8	GROUPE BRUXELLES LAMBERT	ユーロ	ベルギー	1.8%
9	UNITED STATES OF AMERICA 1.125% 30/06/2021	米ドル	アメリカ	1.7%
10	DANONE SA	ユーロ	フランス	1.7%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

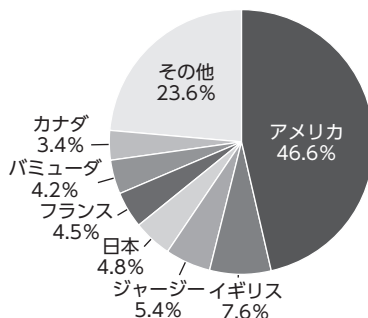
(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されております。

種別構成

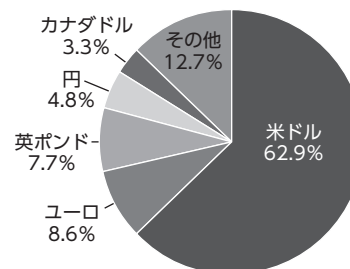
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 直接投資しているのはファンド（受益権）ですが、その先の投資資産を表示しております。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

1万口当たりの費用明細

該当情報の取得ができないため、掲載はしていません。

組入ファンドの概要

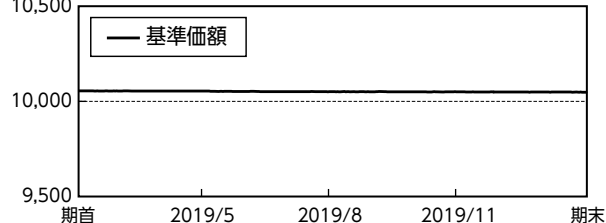
<CAマネープールファンド(適格機関投資家専用)>

第13期 決算日：2020年2月17日

(計算期間：2019年2月16日～2020年2月17日)

基準価額の推移

(円)



組入銘柄

2020年2月17日現在

(組入銘柄数：3銘柄)

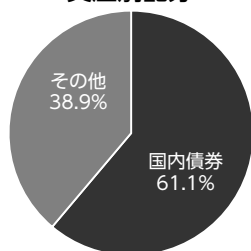
	銘柄	種別	比率
1	平成 22 年度第 1 回北海道公募公債	地方債	25.4%
2	第 174 回神奈川県公募公債	地方債	22.9%
3	平成 22 年度第 1 回広島市公募公債	地方債	12.8%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されております。

種別構成

資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

1万口当たりの費用明細

項 目	第13期 (2019年2月16日 ～2020年2月17日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	1円 (1) (0) (0)	0.011% (0.009) (0.001) (0.002)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、□座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.004 (0.004)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	1	0.015	

期中の平均基準価額は10,051円です。

(注1) 費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

指数に関して

◇「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

• 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) とは、東京証券取引所第一部に上場している全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXの指数値およびTOPIXの商標は東京証券取引所の知的財産であり、同指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は、東京証券取引所が有します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有します。

• MSCIコクサイ・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

• MSCIエマージング・マーケット・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

• NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。

• FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) とは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

• JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドとは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している、現地通貨建のエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

Amundi
ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント